

令和4年度

事業報告書

公益財団法人 小笠原協会

第1 運営の概要

1 運営の概要

(1) 総括

令和2年の春から世界的に猛威を振るい始めた新型コロナウイルス感染は、わが国でも波状的に感染が拡大したが、昨年11月に始まった第8波の流行が本年3月には、ほぼ収束し政府は5月8日から新型コロナウイルスを感染症法の2類から季節性インフルエンザ並みの5類に引き下げたところである。このことから、3年前の9月から開始したおがさわら丸乗船前のPCR検査も5月5日東京発便をもって終了することとなった。

社会経済活動が活発化していく一方、限られた医療資源の下にある遠隔離島である小笠原においては医療提供体制の維持が重要である。

さて、令和4年度の協会運営はコロナ感染の影響を受けたものの、帰島促進、振興開発普及啓発事業としての機関紙・誌の刊行やホームページによる小笠原に関する各種情報提供を着実にを行った。また協会の主要事業である小笠原訪問交流ツアーについては、小笠原村及び小笠原海運(株)と協議のうえコロナ対策に万全を期して実施することとし、3密を避け開催したが、交流会未実施の影響から参加者は減少した。

令和4年度は、当協会にとってコロナ感染の影響を受けて一部の事業の変更をせざるを得なかったものの、当初計画通り概ね着実に運営することができた。

また、協会賛助会員については新規加入者数が令和2年度的大幅減少から転じて回復傾向にあり、継続個人・法人数も増加している。今後とも小笠原に対する普及啓発を充実して賛助会員の拡大を図っていくことが協会の安定運営に不可欠である。

(2) 公益目的事業の取組み

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大により、当協会の公益目的事業も大きな影響を被らざるを得なかったが、協会の基本的役割である、旧島民の帰島支援となる機関紙発行、機関誌発刊(特集号)、ホームページによる小笠原情報の発信を着実に実施することができた。

本年度の機関誌・特集号では「なでしこダイジェスト版」を発刊した。当ダイジェスト版は、「なでしこ復刻版」の僅かな一部を抜粋して編集したもので、東南アジア近現代史を専攻し、「なでしこ」の歴史的価値に深く着目してこられた後藤乾一先生より、「なでしこ」全59冊を「なでしこ復刻版」として発刊したい、とのお話を頂き、願ってもないことと快諾し、(株)めこん(桑原農社長)より昨年10月に発刊された。

また、恒例の小笠原訪問交流ツアーについては、前述により、参加者数が従来に比較して減少した。

協会の実施している公益目的事業の内容については下表のとおりである。

事業区分	事業の目的及び事業項目
(公1事業) 帰島促進、振興開発普及啓発事業	<p>小笠原諸島が自立的発展を成し遂げるためには、「小笠原諸島振興開発特別措置法」に基づく「小笠原諸島振興開発計画」を着実に進める必要がある。そのためにも、今後とも、多くの国民の協力及び支援が求められる。当協会の機関紙やホームページによる情報提供は、これらに対処、貢献するものである。</p> <p>ア 機関紙等刊行物 イ ホームページ</p>
(公2事業) 教育、経済等推進事業	<p>小笠原諸島が自立的発展や住民の生活の安定等を図るためには、様々な形で多くの国民の協力及び支援が必要である。また、当協会も小笠原諸島に係る諸事業を実施し、小笠原諸島の産業・観光等経済効果の向上や地域活性化に寄与又は支援する。</p> <p>ア 小笠原訪問交流ツアー イ 旧島民及び賛助会員に対するおがさわら丸の運賃割引証明書の発行 ウ 国及び自治体や諸団体が実施する事業への協賛等 エ 意見交換会等による情報収集 オ 自然学習会（検討）</p>

2 組織概要

(1) 公益財団法人小笠原協会の機構（令和5年3月31日現在）

機 関	人 称	定 数	現員数	摘 要
1. 議決・監督機関	評議員会	10～15人	12人	
2. 執行機関	理事会	7～10人	9人	会長、常務理事を含む
	会長	1人	1人	
	常務理事	1人	1人	
	事務局	—	2人	外に週1～2日臨時職員4人
3. 監査機関	監事	2～3人	2人	
4. その他	顧問	—	12人	内特別顧問1人
	参与	—	5人	

第2 公益目的事業

1 事業総括

(1) 事業費内訳

公1事業 帰島促進、振興開発普及啓発事業	9,423,874円
公2事業 教育、経済等推進事業	2,095,970円
計	11,519,844円

(2) 主な実施事項

【公1事業 帰島促進、振興開発普及啓発事業】

本事業には、機関紙等刊行物事業とホームページ事業がある。

小笠原諸島が自立的発展を成し遂げるためには、今後とも、多くの国民の協力及び支援が必要である。当協会の機関紙・誌の発行及びホームページによる情報提供は、これらに対処、貢献するものである。ただし、ホームページ事業の内容は、当協会の組織や運営等に関すること、事業計画及び事業実施報告、予算及び決算等に関することなど帰島促進に関わる情報以外のものも掲載。そのため、ホームページの一部の経費は管理費から支出している。

ア 機関紙等刊行物

機関紙等の刊行は、小笠原諸島振興開発事業や小笠原諸島に係る諸情報を、旧島民及び小笠原諸島の島民並びに全国の賛助会員等に提供することで、旧島民の帰島促進及び定着に貢献するとともに、小笠原諸島に係る普及啓発や宣伝、産業・観光等地域経済効果の向上に寄与し、地域活性化の推進を支援するものである。

[令和4年度の実績]

① 機関紙「小笠原」を年4回発行

〈各号共通事項〉

・規格・発行部数等：

A3版、4～6頁、4,000部

・各号に掲載した記事：

小笠原諸島に関する諸情報／小笠原村の世帯数・人口及び気象状況／来島者数
賛助会費・寄付金の氏名／小笠原航路時刻表、訃報など

・配付先：本邦在住の旧島民約600部、小笠原村民約1,600部、賛助会員約1,500部、
関係行政機関約200部、事務局約100部 計4,000部

[令和4年度発行各号の内容]

発行日	主な内容
令和4年 4月1日 第236号	<ul style="list-style-type: none"> ・沖ノ鳥島周辺における研究調査の概要 ・第7回「私と小笠原」硫黄島の星条旗 写真家 渡邊英昭 ・中吉丸奇跡の漂着と小笠原の歴史（その4） ・2021年小笠原訪問ツアーに参加して 小笠原協会事務局（元職員）鈴木千恵子 ・2022年度小笠原訪問・交流ツアー（予告） ・小笠原協会役員会開催 ・伊豆諸島開発「くろしお丸」が就航、「ははじま丸」の代船運航開始 ・母島だより 母島通信員 坂入祐子 ・小笠原協会編「小笠原」特集第66号「小笠原漂流記」を発売 ・令和4年北方領土返還要求全国大会開催される ・小笠原産・特産物パッションフルーツのご紹介 ・賛助会費・寄付金受領御礼（令和3年12月1日から令和4年2月28日まで） ・おがさわら丸の割引証明
令和4年 7月1日 第237号	<ul style="list-style-type: none"> ・全国復帰っ子オンライン交流会開催される ・小笠原の漁業の歩み 東京都小笠原支庁 ・令和4年度 小笠原諸島振興開発事業費予算について ・中吉丸奇跡の漂着と小笠原の歴史（その5） ・第8回「私と小笠原」小笠原村元医療課長 佐々木英樹 ・2022年度小笠原訪問ツアー（実施案内） ・母島だより 母島通信員 坂入祐子 ・賛助会費・寄付金受領御礼（令和4年3月1日から令和4年4月30日まで） ・小笠原協会役員会開催
令和4年 10月1日 第238号	<ul style="list-style-type: none"> ・第99回小笠原諸島振興開発審議会が開催されました（22.06.17） 審議会委員（小笠原協会理事）木暮 実 ・第11回小笠原航空路協議会の開催について ・小笠原村主催 硫黄島訪島事業を実施 ・中吉丸奇跡の漂着と小笠原の歴史（その6）最終回 ・第9回「私と小笠原」小笠原協会 参与 横瀬邦雄 ・2022年度小笠原訪問ツアー（再案内） ・第51回【全国硫黄島島民の会】が開催されました ・「全国復帰っ子オンライン交流会」の経緯とこれから ・公益財団法人 小笠原協会役員会開催及び役員紹介 ・賛助会費・寄付金受領御礼（令和4年5月1日から令和4年8月31日まで）

<p>令和5年 1月1日 第239号</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新年のご挨拶（小笠原協会 会長、東京都知事、小笠原村 村長） ・第10回「私と小笠原」 戦跡ガイド板長 田中善八 ・東京都自然保護指導員（都レンジャー）の活動 都レンジャー 父島地区 藤澤実樹 ・母島に営農移住して 硫黄島旧島民 高橋猛次 ・謹賀新年広告（3－4面） ・母島だより 母島通信員 坂入祐子 ・新刊本のご紹介「水平線」 芥川賞受賞作家 滝口悠生 ・新刊のご案内 復刻版 小笠原諸島・父島 大村尋常高等小学校文集「なでしこ」 ・小笠原協会編「小笠原」特集第67号「なでしこダイジェスト版」を発刊 ・ご寄付のお礼 月ヶ岡神社 総代 前田豊 ・賛助会費・寄付金受領御礼（令和4年9月1日から令和4年11月30日まで） ・賛助会員ご加入および更新のお願い ・おがさわら丸の割引証明
--------------------------------	---

② 機関誌「特集号小笠原」「なでしこダイジェスト版」

- ・規格、発行部数等：B5版、99頁、4,000部
- ・配付先：機関紙「小笠原」と同じ

発行日	主な内容
<p>令和5年 1月1日 第67号 発刊</p>	<p>1991（平成3）年、小笠原の旧島民から極めて貴重な資料が当協会に寄贈されました。1933（昭和8）年から1939（昭和14）年まで小笠原諸島父島の大村に住んでおられた坪井肇氏のお母さまの千代子さんが大村の尋常高等小学校に在籍していた当時の、児童・生徒が書かれた作文集「なでしこ」である。作文集は6年分で59冊という大量なものです。</p> <p>当協会では、戦前の小笠原の自然、文化、島民生活のみならず戦前の学校教育等の実態を知ることができる貴重な資料として、協会に保存しておくだけではなく、何とか広く一般に公開できないものかと思慮してきました。</p> <p>このような折、東南アジア近現代史を専攻し、「なでしこ」の歴史的価値に深く着目してこられた早稲田大学名誉教授の後藤乾一先生より、「なでしこ」全59冊を復刻版として発刊したい、とのお話を頂き、願ってもないことと快諾し、（株）めこん（桑原農社長）より昨年10月に発刊されました。</p> <p>編集者の後藤先生や桑原社長のご厚意により、復刻版の僅かな一部を抜粋してダイジェスト版として、「小笠原」特集号として発刊しました。</p> <p>本特集号をお読みになり、興味・関心を持たれた方は是非、「なでしこ」復刻版をお読み頂きたいと思えます。</p> <p>なお、本特集号では、頁数の関係で割愛せざるを得なかった、「なでしこ」復刻版に掲載の「なでしこ」解説には、昭和初期の小笠原の子どもの生活や教育を詳細に記述しており、これだけでも一読の価値があります。</p>

	<p>なお、当解説は、法政大学沖縄文化研究所で沖縄と小笠原の関係を研究されている大里知子准教授（「小笠原」特集号第62号「小笠原の歳月」の編集者）が執筆されました。</p> <p>最後に、昨年の小笠原訪問ツアー時に父島・母島の小学校、中学校および高校へ、また父島地域福祉センターと母島村民会館に「なでしこ」復刻版を寄贈しました。</p>
--	--

イ ホームページ

ホームページには小笠原諸島の歴史や地理的・自然的特性に即した情報、小笠原諸島振興開発事業や産業・観光等に関する情報を掲載し、小笠原諸島に係る普及啓発、宣伝に努めて旧島民の帰島促進や訪島者の増加に貢献するとともに、産業・観光等の経済効果の向上に寄与し、地域活性化の推進や小笠原諸島の自立的発展を支援するものである。

また、当協会の組織・運営及び各種事業情報を公表し、本邦在住の旧島民や小笠原諸島に関心を持つ不特定多数の人々に対し公開した。

ホームページアドレス：<https://www.ogasawarak.org/>

〈主な情報〉

ホームページに掲載した主な情報は、次のとおりである。

- ・小笠原諸島に関する各種情報
- ・小笠原諸島世界自然遺産情報
- ・当協会の賛助会員情報
- ・当協会の諸事業情報（小笠原訪問交流ツアー、機関紙の発行、小笠原航路の運賃割引証明書発行、協賛等の諸情報など）
- ・当協会の組織や制度等情報（定款、規程、事業、財務等）など

【公2事業 教育、経済等推進事業】

小笠原諸島が自立的発展や住民の生活の安定等を図るためには、様々な形での本邦在住の多くの国民の協力及び支援が必要である。また、当協会も小笠原諸島に係る諸事業を実施し、小笠原諸島の産業・観光等経済効果の向上や地域活性化に寄与又は支援するものである。

本事業として以下の事業を実施した。

- (1) 小笠原訪問交流ツアー
- (2) 旧島民及び賛助会員に対するおがさわら丸の運賃割引証明書の発行
- (3) 国及び自治体や諸団体が実施する事業への協賛等
- (4) 意見交換会等による情報収集
- (5) 自然学習会（検討）

ア 小笠原訪問交流ツアー

令和4年度の事業運営は、新型コロナウイルス感染予防の観点から人流を伴った運営は極力自粛したが、毎年の協会の一大イベントである「小笠原訪問交流ツアー」に関しては小笠原村、小笠原海運とも協議の上、三密は避け交流会は開催しないなど、最大限の注意を払って実施した。実施期間は、令和4年10月31日(月)から11月5日(土)までの5泊6日となった。参加者は25名であった。

イ 旧島民及び賛助会員に対するおがさわら丸の運賃割引証明書（賛助会員証）の発行

本事業は、当協会と小笠原海運株式会社との「東京～小笠原航路乗船券の割引に関する覚書」により実施しているものである。旧島民の里帰り経費の軽減によって里帰り回数の増加と、また、これを賛助会員に広げることで訪島者の増加を図り、島民との交流や産業・観光等村の経済効果の向上に寄与するなど地域活性化に貢献するものである。なお、平成29年8月1日から賛助会員証を発行し、それをもって割引証明書に代えている。

〈割引証明事務〉

小笠原への里帰り又は訪島するため往復の乗船券の予約をした旧島民又は賛助会員について、当協会保管の名簿で旧島民であることを確認し、旧島民には「おがさわら丸の運賃割引証明書」を発行している。賛助会員には「賛助会員証」の発行をもって割引証明に代えている。割引は特2等及び2等で2割引である。なお、旧島民名簿の確認は、「小笠原関係実態調査元居住者名簿」に基づいて実施している。

[旧島民及び賛助会員割引利用実績]

令和4年4月1日から令和5年3月31日までの、小笠原航路の割引利用者は、賛助会員が505人、旧島民の方の割引利用者数は24人で合計529人であった。

なお、平成27年度604人、28年度381人、29年度495人、30年度692人、令和元年度611人、令和2年度は314人、令和3年度は444人であった。本年度は対前年比約1.2倍、新型コロナウイルス禍ではあるが、乗船者数増の傾向がみられた。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
賛助会員	42	19	62	65	84	42	44	27	36	9	31	44	505
旧島民	0	3	3	4	4	1	2	0	1	2	0	4	24
計	42	22	65	69	88	43	46	27	37	11	31	48	529

ウ 国及び自治体や諸団体が実施する事業への協賛・参加

国及び自治体や諸団体が実施する行事又は催し物等に対して協賛等を行うことにより、産業・観光等経済効果の向上と地域活性化の推進を支援する。

協賛等には、協賛金の支出により必要経費の一部を助成するものと、主催・共催・後援等への当協会名義の使用許可及び諸行事への参加がある。

- ① アイランダー2022（令和4年11月19日および20日開催）に後援
- ② 北方領土返還要求全国大会（令和5年2月7日）への参加、会長・常務理事・事務局長が参加

エ 意見交換会等による情報収集

小笠原村で実施する当協会役員及び在島評議員・理事等と島民との意見交換会において、小笠原諸島振興開発事業や産業・観光等に関する現場の意見・要望等を取りまとめて国や東京都など関係機関に対する要請等に活かすとともに、当協会の今後の運営の参考に資し、小笠原村の産業・観光等経済効果の向上と地域活性化の推進を支援するものである。

また、硫黄島墓参及び遺骨収容等については、国、東京都及び小笠原村の情報を機関紙等で提供するほか、当協会役員や職員が墓参等に参加して硫黄島の現状を把握し、情報収集及び情報提供の質の向上に努め、帰島できない旧島民に対しきめ細かな対応を図るものである。

① 役員等及び島民との意見交換会の実施

令和4年11月の「小笠原訪問交流ツアー」で訪島した会長等の協会役員等が当協会現地役員と意見交換を父島及び母島において実施した。

- ・令和4年11月2日(水) 12:00～13:00

父島在住役員（評議員・理事）と会長、常務理事、事務局長

- ・令和4年11月2日(水) 18:00～20:00

「小笠原村在住硫黄島旧島民の会」の会長・副会長と会長、常務理事、事務局長

- ・令和4年11月3日(木) 12:00～13:00

母島在住役員等（評議員・支庁出張所長・及び村支所長）と会長、常務理事、事務局長

② 全国硫黄島島民の会参加による情報収集

日時：令和4年9月11日(日) 川崎日航ホテル 協会参加者は会長、常務理事、事務局長。コロナ禍の中、旧島民関係者等51名の参加者があり、今回のテーマ「硫黄島・そこには豊かな営みがあった！」が正面に映し出され、三部形式で会は進行された。

第一部は、定期総会として開会、寒川藏雄会長の挨拶で始まり、5年振りの墓参（洋上慰霊祭）の紹介と講話がありました。渋谷正昭村長のビデオメッセージの紹介、小笠原村長代理の椎名裕太主査、小笠原協会渋谷信和会長が挨拶、続いて小笠原・母島中学生と小笠原高校生への講話と感想文が紹介されました。

第二部では、沖縄・硫黄島合同慰霊祭が行われ、スクリーンには「沖縄返還50周年」と映され、代表の方々が献花され、最後の第三部では、会食をしながら懇親会を実施した。

③ 「全国復帰っ子オンライン交流会」への参加

・開催日 令和4年4月29日

・主催 沖縄県復帰っ子連絡協議会

・協力 日本島嶼学会

・参加団体等 ア「沖縄県復帰っ子連絡協議会」(昭和47年復帰)

イ「奄美群島の日本復帰運動を伝承する会」(昭和28年復帰)

ウ 鹿児島県十島村(トカラ列島)有志グループ(昭和27年復帰)

エ 小笠原村有志グループ(昭和43年返還)

<小笠原村有志グループの参加者>

竹芝会場：父島出身の森田裕一氏(在京)

硫黄島出身三世の西村玲馬氏(在京)

父島会場：菊池康彦氏

母島会場：折田五十二郎氏

前田豊氏

- ・ 沖縄の日本復帰50周年企画の一つとして、沖縄が復帰した年に生まれた子供たちで組織する「沖縄県復帰っ子連絡協議会」の呼びかけで開催された。
- ・ 戦後に米統治や日本への施政権返還を経験した小笠原・沖縄・奄美・十島から、復帰の歴史伝承に取り組む各島の島民や出身者、旧島民の子孫らの参加者をオンラインでつなぎ、それぞれの地域が歩んだ歴史や返還・復帰後の経済、生活状況、課題等について情報交換し、互いに理解を深めた。
- ・ 小笠原村有志グループからは、強制疎開、硫黄島玉砕、硫黄島帰島問題、空港等の交通問題、親たちの帰郷運動、旧島民の帰島促進、入植時の苦労談、返還後の行政、商工業の取り組み、歴史や記録の保存活動等について多岐にわたり語られた。

第3 組織運営実績

1 役員会議等の開催

(1) 理事会

回	開催月日	議題等
第1回 対面	令和4年 5月26日	1. 令和3年度事業報告の承認について 2. 令和3年度収支決算書の承認について 3. 報告事項「全国 復帰っ子オンライン交流会の開催について」報告
第2回 書面評決	令和4年 6月30日	1. 常務理事の選任について
第3回 対面	令和5年 3月23日	1. 令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）について 2. 各種規程等の一部改正（案）について

(2) 評議員会

回	開催月日	議題等
第1回 対面	令和4年 6月16日	1. 令和3年度事業報告の承認について 2. 令和3年度収支決算の承認について 3. 評議員の選任について 4. 理事の選任について 5. 監事の選任について 6. その他 報告事項①「令和4年度事業計画及び収支予算」について 報告事項②「会長・常務理事の執務状況報告」 報告事項③「全国復帰っ子オンライン交流会の開催」について

2 事務局

(1) 協会賛助会員及び旧島民登録者の拡充

機関紙、ホームページ等により賛助会員の新規加入や旧島民の登録を呼び掛けた。

(2) 協会資料の整理保全

資料担当を設置し、協会の過去の資料の整理保全を実施した。

(賛助会員数の推移)

個人の新規加入者数は対前年度比約21%増、継続者は対前年度比約10%増となった。賛助会員費としては対前年度比4.8%増だった。

令和2年度に落ち込んだ新規・継続会員数は回復基調にあるが、更なる新規加入者数の回復と継続会員の定着、法人会員の継続が課題である。

なお、法人会員数については、賛助会員規程に基づき機関紙への広告掲載法人を法人会員として算入した。

年度	平成 25	26	27	28	29	30	令和元	2	3	4
新規加入	289	243	247	91	224	233	265	123	125	151
継続個人	1,024	1,010	814	832	979	879	818	817	919	1009
法人	24	25	27	27	28	28	46	47	50	51
計	1,337	1,278	1,088	950	1231	1140	1129	987	1094	1211